

郷土の財産、 子どもたちの育みは「地域」とともに

—地域組織と連携したPTA活動—

プロフィール

地域

朝倉市は福岡県のほぼ中央に位置し人口約6万人で、面積は県内で3番目の広さ(246.73km²)で南部には九州一の大河「筑後川」が流れ、北東部には山々が連なる山紫水明の豊かなまち。

学校

秋月小学校は、市の北部に位置し、昭和48年、4校が統合され現在に至る。児童数196名、学級数7学級、教職員数19名。「仲良く、正しく、やりぬく」を基本に育成に努めている。

PTA

会員数133名。学年、地方、健全、広報、環境で委員会を組織し、「自分の地域を愛し、誇ることでできる子どもを、のびのびと育てるPTAづくり」に取り組んでいる。

1 はじめに

秋月小学校は、悠久の歴史と山紫水明の豊かな大自然に囲まれたやすらぎとゆとりの環境にあり、温かい地域住民のみなさんに見守られながら子どもたちを育んでいる。私たち秋小PTAは、子どもたちが郷土のよさを知り、郷土を愛し、健やかに育つようにと願い、地域組織と連携しながら活動を展開している。

2 PTAの目標

秋小PTAのテーマは、「自分の地域を愛し、誇ることができる子どもを、のびのびと育てるPTAづくり」である。

本年度のテーマは、「きっかけは『気づき』から — 大人が変わらなければ子どもは変わらない! まず、自分から変身! —」である。気づき、そして行動することが、子どもたちの健全育成にとって、とても大切であると考えている。子どもたちの健やかな成長を見守りながら、私たち自身も学び合い成長していけるように、そして、自分の変容を喜びと感じられるPTAでありたいものである。

3 実践内容

(1) 地域教育力

— 学校・家庭・地域と連携した取組 —

子どもの基本的な生活リズムを育む PTA活動

—早寝・早起き・朝ご飯・挨拶運動の取組—

プロフィール

地域

筑後平野のほぼ中央に位置し、町の総面積の14%をクリーク（掘割）が占める人口1万5千人の町で、環境に優しい「循環のまちづくり宣言」を掲げ、いちご・えのき・しめじなどの生産が盛ん。

学校

本校は、昭和7年2校合併により設立。児童数411名、学級数15学級、教職員21名。「対話的コミュニケーションのできる子ども」育成に努力している。

PTA

会員数296名。地域基幹産業の農業を生かして、家庭と学校と地域が連携した収穫祭（作物を育てて食する）・「できる時に、できること」をモットーに全会員による保護者ボランティア活動を推進している。

1 はじめに

今、私たちの暮らし方は、不規則な上、夜更かし型が定着し、大人の暮らし方が子どもたちに影響しているといえる。本校でも、平成十七年度の調査で、二年生六十九人中七人、五・六年生の半数が、二十三時以降に就寝している実態だった。この実態から、多数とはいえないまでも、一定の子どもたちの生活リズムが乱れている恐れがあり、結果として、本校の子どもたちも学習意欲・体力・忍耐力などが低下している可能性があると考えられた。

そこで、生活リズムの乱れを未然に防ぐとともに、乱れた生活を改善していく一つの解決策として、平成十八年度から福岡県PTAの「新家庭教育宣言」の取組に参加し、今年で三年を終える。

2 活動のねらい（二十年度）

- (1) 習慣化したい項目（早寝・早起き・朝ご飯・挨拶・ノーテレビタイム）の数値目標を保護者と子どもとの対話により設定することを通して、取り組む必要性の意識化と家庭内のコミュニケーションを図る。
- (2) 保護者と子どもが共に、定期的に繰り返し実践することを通して、子どもの自発的な行動を促す。
（保護者自らの模範的行動の実践）

3 活動の内容

《平成十八年度》

(1) 事前事後二回の家庭教育講演会実施(六月・十月)

【講師：T大学教授 S先生(参加率約五十%)】
一回目は取組の趣旨を理解し実践していただくために、二回目は、実施後の振り返りを通して、取り組む意義を再確認してもらおうことを目的に実施した。実践のプロセスを踏まえての講演だったので、実践への意欲化の醸成と継続の必要性の共通理解を図ることができた。

(2) 二段階の「ひまわりカード」(実践カード)

夏休みを前期と後期に分け、カードを二回配布した。前期ひまわりカード実践の途中に、各地域毎で懇談会を行い、各家庭の実施状況を報告し合う場を設けた。他の家庭の成功例や失敗例、悩み等についての意見が出て、実践の意欲につながった。

(3) 達成家族へのひまわり賞の授与

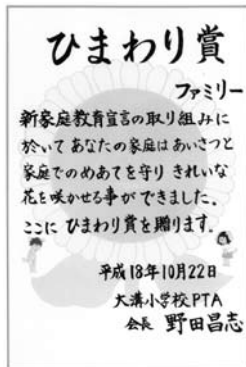
夏休みという随時の声かけができない状況で、カード提出率が、前期八十八・後期九十%だった。親子とも目標達成率九十%以上の家庭にひまわり賞を授与した。(受賞率二十五%)



家庭教育講演会



ひまわり賞授与式



ひまわり賞

ひまわりカード1 (7月21日~8月3日)

■ 共通実践項目「おはようございます」(オアシス運動)と家庭で話し合って決める自由項目の2つを目標に実施した。

■ 目標を達成できた日は色鉛筆で塗りつぶす形で、日々の成果を可視化できるようにした。(外側一親・内側一子)

(4) 成果と課題

○親子の交流が増えたり、生活リズムの大切さを実感された家庭が多かった。親がさぼりがちという反省の弁もあった。

○様々な目標を掲げ実施されたが、多岐に渡りすぎPTAとして共通の努力目標を限定するという意見が多かった。

○約八十%の保護者が取組の継続の必要性を感じられた。

《平成十九年度》

(1) 年六回「早寝早起朝ご飯挨拶運動」実施

PTA総会で、新家庭教育宣言の取組の継続を提案。習慣化をめざし、目標を四項目に絞り込んだ上で年六回。

(毎回一〜二週間)の実施。

(2) 成果と課題

継続することの大切さから、六回実施したが、カードの集約・分析が実行委員で行ったので、非常に大変だった。実施の目標を再確認して、継続できる実施方法を検討した。

《平成二十年度》

(1) 年三回「早寝早起朝ご飯挨拶運動」実施

(ノーテレビタイム含む)

(2) 夏休み期間中の実践の強化

「ひまわりカード」

(九十%以上の実施率達成)

4 活動上の工夫

(1) 目標設定の工夫

○十八・十九年度の反省を受け、目標を五項目にし、実施回数も六回から三回に減らし、生活リズムの習慣化への保護者や子ども意識を持たせた。

○具体的な数値目標(早寝〇子ども十時・大人十一時等)を話し合いで設定することで、達成の意欲を高めた。

○就寝時間がなかなか守れないことから、期間中に一日だけのノーテレビタイムを親子で設定する目標を設定した。

(2) 実施啓発の工夫

○学校から子どもたちへの実施の呼びかけ

○カード記入の簡素化

○実施状況の文書配布

○PTA活動(地域懇談会・学級PTA)での実施状況の意見交換会の実施

(3) 取り組みを広げる工夫

○幼稚園保育園への実施の呼びかけと地域懇談会への参加要請

○町内の他校への取り組みの呼びかけ(町PTAとの連携)

○地域の方々への実施の報告と協力の呼びかけ(挨拶奨励)

5 活動の成果

○学校の児童実態結果や日頃の子どもたちの様子から、三年間継続して取り組んだことで、朝からいらいらしている子や保健室に行きたがる子が少なくなり、学校や家庭で子どもたちが落ち着いてきたようである。そのことで、学習に集中して取り組める子が多くなり、学力も向上してきたという結果が学校から報告があった。

○各家庭の取組に対する意識が高まり、基本的な生活習慣を身につけてきた子が多くなったが、全保護者の意識が変容したとは言えない。今後も家庭と学校と地域が連携した継続的なPTA活動の取組の必要性を再認識した。

○新家庭教育宣言の取組を就学前の子どもの保護者や地域や町内に広めたことで、町全体の教育環境をよくするという意識が全PTA会員に培われてきた。

6 終わりに

今の子どもたちは、元気度が低下しているとよく言われる。家庭内の関わりが希薄化している今の流れが続く限り、子どもたちの元気を取り戻すことはできないのではないだろうか。家庭での「当たり前前」のことを当たり前にする「ことがいかに大切かをしっかりと伝えていくと共に、長

い人生の中で、「子育てを楽しめる時間はほんのわずかしかない」ということを多くの保護者に気づいてもらうことが、今の私たちPTAに求められる役割ではないだろうか。

展望

現代社会は、生活が不規則な家庭が増加し、多くの子どもたちの就寝時間が二十時以降であり、睡眠時間が五時間以下という結果も報告されている。

そのような中で、事例は、PTAが一体となって、「早寝・早起き・朝ご飯・挨拶運動」を実施するために、講師を招聘し、その意義等をまず理解し、その後、夏休み等を通じて目標設定をし、実践した。その結果、約八十%の家庭で継続して欲しいという要望があるように学校・家庭・地域の連携のとれた適切な取組といえよう。その意味からもPTA活動の今日的課題にとって参考となる事例であると考えられる。

今後は、この活動を継続させるためにも、目標を少し絞り、習慣化させていきながら実践して欲しいものである。